ホームページ http://www.shinjuku-shinbun.co.jp

週刊 新宿新聞 THE SHINJUKU SHINBUN

1月25日 2015年（日曜日）（第1942号）

社章

発行所 株式会社新宿区新聞社 編集・発行人 喜田 勇 新宿区西新宿7－7－25 ワコーレ新宿第2ビル

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊60周年 ☎3369－6195 FAX3369－0759 （昭和32年12月4日第3種郵便物認可）

主なニュース

❷面 新大久保駅西側、再び多国籍の街に
❸面 老舗喫茶・エジンバラが新宿3丁目で復活
❹❺面 新宿ハーフマラソン、25日に号砲！
❺❻❼面 各地で盛況！新年賀詞交換会
❽面 内藤政武・学校法人学習院院長に聞く

タイ人をはじめ多くの外国人が訪れる歌舞伎町

新宿の"外国人・商戦"は今

昨年10月、免税品の対象品目が、化粧品・食品などにも拡大した。これを受け、新宿の百貨店・免税品店などの免税売上はいずれも前年に比べ2～3倍の大きな伸びをみせた。これにより伊勢丹新宿本店では1月（14日時点まで）、店舗全体に占める免税売り上げが9％、新宿高島屋では年初3が日の免税売り上げ割合が1割に達し、外国人特需に沸いている。ホテル宿泊客も外国人客増に支えられ、客室利用率は高止まりの傾向。ビジネス客主体の新宿ワシントンホテルも4月から1年かけて全館改装を実施。ツインルームを増やすことで外国人観光客の上積みを図る。（2面へ続く）

外国人"特需"に湧く！

おもてなし新宿

百貨店"売上げ"が2倍に、ホテルは満室近く

訪日外国人客の取り込みをめざし、15年4月から1年かけて本館の全面改装に取り組むのが西新宿の「新宿ワシントンホテル」（千2百97室）だ。同ホテルでは「タイ客が一昨年10月からのビザ緩和で旧正月、花見などのピーク期に限らず年間を通してくるようになった。またこれまで回復の兆しがみえなかった韓国も昨年8月以降、前年比でプラスに転じ、いずれの国も順調だ」と言う。

だがワシントンはビジネス客を主体とした造りのため、全室の45％がシングルで占める。そのため日本人を含めた全体の客室利用率は9割前後で推移しているが、外国人観光客比率は主要ホテルの中では低い4～5割程度にとどまっている。今後、ワシントンと同じ藤田観光が運営する東口・歌舞伎町の「ホテルグレイスリー新宿」（9百70室）が4月にオープン。グレイスリーを観光客、ワシントンをビジネス客と使い分けることで、これまで取りこぼしてきた外国人客の取り込みを進める。さらにビジネス主体のワシントンワシントン自体も改装によりツインルーム（現在4百21室）を増やすことで、外国人客の上積みをめざす。

▼プリンスではタイ客が中国本土客を上回る

訪日外国人客の伸びに支えられ高稼働を維持したのが、歌舞伎町にある「新宿プリンスホテル」だ。昨年10～12月にかけての日本人を含めた全体の客室利用率は92％。このうちに占める外国人比率は前年に比べ7・8ポイント増の72％に達した。国別では、何とタイ客が中国本土客（2位）、台湾客（3位）を上回りトップに。タイ客は前年に比べ29％増、中国本土客も前年に比べ27％増に達した。この2国以外では韓国、台湾などの伸びが目立ったという。

▼京プラの外国人比率は66・8％

1年に百ヵ国以上訪れる京王プラザホテルも外国人観光客比率は年々、上昇している。12年度は56・2％だったのが、13年度は64・1％、14年度上半期は66・8％に達した。円安に加え、13年の富士山の世界遺産登録、和食のユネスコ無形文化遺産の登録など「クールジャパンが注目されたことが大きい」とみている。

日本人を含めた全体の客室利用率も昨年10月は89・4％、11月は87・2％と高稼働を維持。現在は「単価を重視し宿泊料金を上昇させ、それに見合うお客様の満足度向上策を考えている」と言う。2月からは毎年恒例、外国人客も注目する「巨大ひなまつりの装飾」を実施。今年は初の試みとして御所（宮中）で生まれた「御所人形」にスポットを当てた展示を行う。

三越銀座店では15％ 外国人売上が店舗を支える

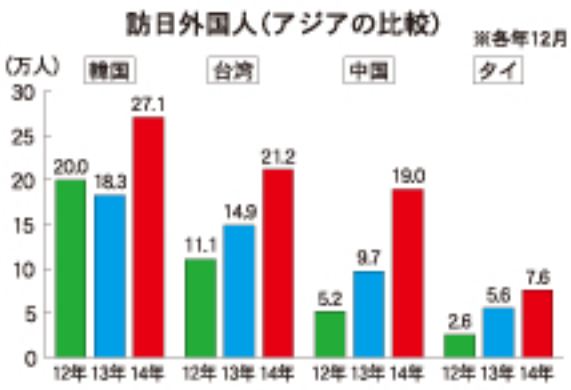
全国の百貨店の中でも外国人観光客比率が高かったのが三越銀座店だ。昨年10月以降、店舗全体に占める外国人売り上げ（免税売上）の割合は12％以上に達している。今年1月は14日までで15％に達し、外国人売り上げがけん引役となっている。

年頭3が日の免税売上が1割に達した高島屋

ホテル

タイ人はプリンスに集中

ワシントン ツインを増やす改装



高島屋 伊勢丹

年始の外国人売上1割に

半数が中国本土客で占める

伊勢丹新宿本店では昨年12月の免税売り上げは前年に比べ2・36倍にも達した。「昨年10月から免税の対象に加わった化粧品の伸びが目立った」（三越伊勢丹HD）と言う。同店の店舗売り上げに占める外国人売り上げ（免税売上）は、13年度は3・5％（年間平均）だったが、それが、免税品目が拡大した後の12月には7％まで増加。さらに1月に入ると9％に達した（14日時点まで）。国別（12月時）では外国人観光客の5～6割を占める中国本土・香港客の伸びが3倍に達し、けん引役となった。次いでタイ、台湾、韓国の順で訪れている。

日本人客主体の1月2日の初売り、14日からのクリアランスセール（冬セール）でも、「今年は外国人観光客の姿が増えた」と言う。

▼高島屋は外国人割合が1割にも（年初3が日）

新宿の百貨店の中で、店舗売り上げに占める免税売上比率が高いのが、新宿高島屋だ。

13年度1年間を通した店舗全体に占める免税売り上げは4・5％だった。それが昨年4～12月にかけては7％、免税品目が増えた10月以降は8・7％まで上昇した。

この動きは今年に入り、さらに加速。1月の年初3が日の外国人売上割合は10％に達した。

「外国人観光客の姿が目立ち、福袋のまとめ買いなども多くみられた」（高島屋）と言う。

外国人観光客に占める割合は中国本土客が最も多く、3割を占めている。

▼小田急は12月売り上げが3・3倍増に

西口の小田急百貨店新宿店も昨年10月以降、免税売り上げは大きく伸びた。前年に比べ10月で2・4倍、11月で2・5倍、12月で3・3倍と月を追うごとに外国人売り上げの伸びは加速した。年初3が日も「インバウンド（外国人売り上げ）の伸びは2倍強に達し、福袋を買う姿が目立った」（小田急百貨店）と言う。

小田急の店舗全体に占める外国人売り上げは2～3％程度にとどまっていたが、現在は4～5％まで上昇。国別では中国本土客がトップ、台湾、タイ、香港、韓国が続いている。

秒読み

▼また一人"戦後の新宿・闇市"時代を知る男が逝った。本紙記者・藤本守衛氏だ。「政治家生涯の中で何度か歴史の十字路に立ち合ったことが、私の人生で最大の栄誉だった」と言ったのは石原慎太郎氏だが、同じく新宿の"歴史の裏舞台"を見てきたのが、藤本氏だった▼営業マンであり、記者だった彼は、本来の仕事を超えて政界に人間関係を築いてきた。彼の動物的"嗅覚"は、ここが有名人の"勝負どころ"、"取引の場"と思われるところを嗅ぎ付け、そこには彼の姿があった▼細木数子、安岡正篤、島倉千代子、田辺哲夫、笹川良一…数知れぬ生臭い過去だ。弁護士でもあった田辺哲夫氏と細木女史にまつわる銀座のバーでのリアルな"話"も、よく彼から聞かされた▼当時、田辺哲夫氏は、新宿の政界では"飛ぶ鳥を落とす"勢いのあった大物で、与謝野馨氏と新宿の政治勢力を二分していた。その頃の"田辺番記者"として田辺氏の"信"を得ていたからこそ"裏舞台"を見ることができたのだろう▼そんな数知れぬエピソードは、みんな墓の中へ。最後に"修羅場"を見てきた藤本記者に言えることは、強がりを言い、見栄も張るが、人情もろく肝っ玉も据わった熱血漢だったということだ。……70歳。合掌。